

## 週報

## こひつじ

第39巻 12号  
 大津キリスト教会  
 菊池郡大津町室 119  
 TEL 096-293-4470  
 FAX 096-293-4961  
 牧師 米村 英二

## 宮きよめ

## その二 へりくだった心に住まわれる神

けれども、イエスの怒りの理由は、それだけではなかった。むしろ、神殿礼拝そのものにあつたのではないかと思われる。

いったい神は神殿に住まわれるだろうか。

最初の神殿を建てたソロモンでさえ、こう言っている。

「それにしても、神ははたして地の上に住まわれるでしょうか。実に、天も、天の天も、あなたをお入れすることはできません。まして、私の建てたこの宮など、なおさらのことです」(二列王記八の二七)

神が住まわれるのは、人が造った神殿などではない。そんなこと

はソロモンでも知っていた。

それにもかかわらず、当時の宗教指導者たちは、民衆の心を神殿に向けさせ、その維持のため、膨大な費用を民衆より集めていたのである。

イエスの怒りはそこにあつた。では、神殿でなければ、神はどこに住まわれるのか。

われわれの心である。

そして、もし私たちの心が、当時の神殿のように、神以外のもので占領されているなら、同じようにイエスは言われるだろう。

「これらの物をここより取り去れ。わが父の家を商売の家とするな」

それなら神に住んでいただくた

めに、私たちは、どのように自分の心を整えたらよいのだろうか。

第一は、へりくだることである。神はこう言われている。

わたしは、

高く聖なる所に住み、

心碎かれて、

へりくだった人とともに住む

(イザヤ五七の一五)

神が求められるのはへりくだった心だ。そのためにはどうしたらよいか。人はだれも神が造られた大自然を見るとき、不思議の感に打たれ、へりくだらざるをえないのではないか。ダビデがそうだった。彼は言う。

あなたの指のわざである天を見、あなたが整えられた

月や星を見ますのに、

人とは、何者なのでしょう。

あなたがこれを

心に留められるとは

(詩篇八の三、四)

ダビデは神の造られた大自然を

見て思った。

その壮大さに比べて、自分は何と小さな存在であろうかと。それなのに神は、そんな自分に目を留めてくださっている。彼はへりくだって、それはなぜなのでしょうかと問うたのである。

宇宙飛行士たちの体験も同じだった。彼らは、月から、地球を見たとき、そのあまりの美しさに驚いて、こう言った。

「地球を見てみると、それは、想像できないほど美しいビー玉である。美しく、暖かく、そして生きています。．．．これを見れば、人はだれでも考え方が変わるはずだ。神の天地創造と神の愛に感謝し、心からへりくだらざるを得ない」

神に住んでいただくために第二に必要なのは、心を広げていただくことだ。

有名な『告白』のなかで、アウグスチヌスは、こう祈っている。

私の魂の家は、

あなたがおほりになるには、

あまりに狭すぎます。

広げたまえ。

荒れはてています。  
なおしたまえ。

魂を広げるには、まずは余分なものを取り除くべきだろう。心のできるだけシンプルにして、少しでも広くされた空間に神を迎えたいものだと思う。(続)

今日の礼拝

○第一礼拝は午前10時から、  
第二礼拝は午前11時から。  
○教会学校は午前10時から。  
○説教は米村牧師。

先週の礼拝

○司会は合志文利さん。  
○説教は米村牧師。イエスの復活を信じようとしなかったトマスに対してイエスが言われた言葉、「信じない者にならないで、信じる者にならないさい」(ヨハネ二〇の二七)からでした。

私たちも、つい人生がうまく運ばないと悲観的になります。そのときイエスは、同じように私たち

に言われるでしょう。  
「信じない者にならないで、信じる者にならないさい」

なぜそう言われるのでしょうか。世界を、人生を治めているのは、悪魔でも運命でも宿命でもなく、私たちが愛しておられる天の父だからだと語りました。

先週の出席

○第一礼拝が四〇名、第二が四名、合計八二名(男二五、女五七)。子ども一〇名。合わせて九二名でした。

報告・案内

○新型コロナウイルスも、だいぶ下火になり、マスク着用義務も緩和されてきましたので、礼拝では、会衆の皆さんにはマスクの着用をお願いしますが、説教者及び司会者は、必ずして行なうことになりました。そのほうが、会衆の皆さんにとって声が届くこととすいとのことでしたから。

○週報『こひつじ』二〇二二年(三八巻)の合本ができあがりしました。まとめて読むと、昨年のごくよくわかります。一冊五〇〇円です。代金は教会の献金箱に入れてください。

○毎月第一日曜日には、いつも若い方がたが説教してくださいますが、同時に、いろんな方に自己紹介をお願いしています。四月二日は堅山裕史さんです。五月七日は岡本はるなさんをお願いしています。

妻は今年八一歳に、ぼくは七八歳になります。ずいぶん長く生きてきたものだと思います。

妻が日野自動車をやめて宣教師と働き始めたのは二〇歳のときです。伝道生活六一年、ぼくがシャープをやめて神戸のモーレンキャンプ宣教師のもとで訓練を受け、始めたのは二一歳のときですから、五七年です。

振り返ると、神の恵みに溢れた人生であったと、感謝でいっぱいです。

最近、けれども、ふたりとも耳が聞こえづらくなっています。ぼくのほうは目もあまりよくありません。

あと何年、こんな生活ができるのだろうかと妻と語り合うことがあります。一日一日、やってゆきたいと思っています。教会のほうは、若い方たちが、いろんな方面で活躍してください。感謝しています。

牧師身辺

牧師のメールアドレス。

\*\*\*\*\*

yonemura@ja2.so-net.ne.jp